

令和元年度 個別作業実施状況

1 事業の概要

(1) 目的

「霧ヶ峰自然保全再生実施計画」及び「個別作業計画」に基づき、霧ヶ峰の生物多様性の保全・再生を推進するため、生態系を改変するおそれのあるオオハンゴンソウ等の外来種の駆除と、多様な植物の生育を促すためにニッコウザサ等の優占群落の刈取を行うとともに、モニタリング調査を実施してその効果を検証する。

(2) 実施期間

令和元年6月1日から令和2年3月31日

(3) 活動状況

種別	実施地区	作業内容	作業日	参加人数	作業実績	備考
外来種駆除	池のくるみ	ハルザキヤマガラシ駆除	6月1日(土)	38人	200kg	
	車山高原	ヘラバヒメジョオン・フランスギク駆除	6月27日(木)	53人	150kg	
	強清水湿地	オオハンゴンソウ駆除 (2回実施)	7月9日(火) 8月6日(火)	66人 68人	995kg 1,010kg	
	インターチェンジ草地	ヘラバヒメジョオン駆除 (ススキと同時)	(ススキと同日)	(ススキを含む)	150kg	
小計	4地区		4回	225人	2,505kg	
草原再生	車山肩東	ニッコウザサ群落刈取り	8月31日(土)	16人	約1ha	
		ニッコウザサ群落搬出	9月3日(火)	29人		
	インターチェンジ草地	ススキ群落刈取 (搬出・積込は8/29)	8月28日(水) 8月29日(木)	38人 10人	約1ha	刈取量 3,250kg
小計	2地区		3回	93人	約2ha	
合計	6地区		7回	318人	2,505kg 約2ha	

令和元年度は、一般のボランティアを含めて延べ318人の方に参加いただき、霧ヶ峰自然保全再生のための作業を行い、全体で約2.5トンの外来種の駆除と約2ヘクタールの優占種の刈取りを実施するとともに、効果を検証するためのモニタリング調査を行っていただきました。

2 個別作業の実施結果

(1) 外来種駆除事業

① 池のくるみハルザキヤマガラシ駆除作業

○日時：令和元年6月1日（土）9時から12時

○場所：池のくるみ小和田牧野組合お花畑付近からサフォーク小屋周辺

○作業状況

池のくるみ地区に侵入定着が見られるハルザキヤマガラシの駆除を、小和田牧野農業協同組合を中心に実施しました。当日は募集定員50名に対して38名の参加となりました。

開会式をお花畑の奥の駐車場でいき、当協議会座長の土田先生、信州大学農学部大窪教授からハルザキヤマガラシの特徴や駆除に関する説明を受け、翌年に生育するロゼット状の幼体の同時駆除が効果的であることなどについて学習しました。

今年度も昨年度と同様に、開会式場所からスタートして池のくるみのサフォーク小屋へ下る道路沿いを中心に駆除する班と、サフォーク小屋周辺での駆除を行う班の2班体制で駆除を行いました。駆除方法は、外来植物駆除の手引きに基づき刈取りで、ロゼット型の幼体については抜取りで行い、200kgのハルザキヤマガラシを駆除することができました。

焼却施設への運搬を翌月曜日に行うことで作業時間を長く確保できるようにしており、サフォーク小屋周辺の池のくるみの広範囲において駆除を実施することができました。



② 車山高原ヘラバヒメジョオン・フランスギク駆除

○日時：令和元年6月27日（木）9時から11時30分

○場所：車山高原スキー場ゲレンデ及びビーナスライン沿線

○作業状況

車山高原に侵入定着が見られるヘラバヒメジョオン・フランスギクの駆除を、北大塩財産区、車山高原観光協会を中心に実施しました。当日は募集定員50名に対して53名の参加となりました。

開会式を車山ビジターセンター2階で行い、車山ビジターセンター職員からヘラバヒメジョオン・フランスギクの見分け方、駆除方法等について説明を受けました。

ヘラバヒメジョオンの駆除はビジターセンター裏のゲレンデで実施し、外来種駆除の手引きに基づき、なるべく地際から剪定バサミで刈取りました。しかし、広大な面積に繁茂しており、すべてを駆除することはできませんでした。

フランスギクについてはビーナスライン沿いに繁茂しており、車山高原スキー場から諏訪市側の最初の自動車待避所までの区間と、車山高原スキー場から白樺湖側に向かった沿道を2班に分かれて駆除を行いました。フランスギクは、根と種子の両方で繁殖するため、抜取

りにより駆除しました。また、ヘラバヒメジョオンの駆除を実施したゲレンデにも新たにハルザキヤマガラシの繁茂が見られたため、併せて駆除を実施しました。

これらの駆除作業で、ヘラバヒメジョオン・フランスギク等を合わせて150kgを駆除することができました。



③ 強清水湿地・踊場湿原入口オオハンゴンソウ駆除

【第1回】

○日時：令和元年7月9日（火）9時から12時

○場所：強清水湿地及び踊場湿原入口

○作業状況

強清水湿地に侵入定着が見られる特定外来生物オオハンゴンソウの駆除を、上桑原牧野農業協同組合、小和田牧野農業協同組合、諏訪市を中心に実施しました。当日は募集定員60名を超える66名の参加がありました。

開会式を強清水湿地で行い、信州大学農学部大窪教授からオオハンゴンソウの特徴や駆除に関する説明を受け、外来生物法で特定外来生物に指定されており運搬や飼育が規制されていること、種と地下茎両方で繁殖するため根から掘り取って駆除する必要があることなどについて学習しました。

5m×5mの大きさで計16区画（予備の4区画を含む）を設定し、概ね5人一組で編成した12班が各区画に入って掘取作業を行いました。また、設定区画の諏訪市側及び、駐車場向かいの区域については、刈払機による刈取りを上桑原及び小和田牧野農業協同組合が実施しました。

作業時間内に予備区画を含むすべての区画での掘取作業が終了したため、刈取班が刈り取った駆除植物の搬出を行いました。

掘取及び刈取作業で、995kgのオオハンゴンソウを駆除することができました。

また、踊場湿原については、諏訪市教育委員会を中心に作業を実施しました。

【第2回】

○日時：令和元年8月6日（火）9時から12時

○場所：強清水湿地及び踊場湿原入口

○作業状況

強清水湿地に侵入定着が見られる特定外来生物オオハンゴンソウの駆除を、上桑原牧野農業協同組合、小和田牧野農業協同組合、諏訪市を中心に実施しました。当日は募集定員60名を超える68名の参加がありました。

開会式を強清水湿地で行い、信州大学農学部大窪教授からオオハンゴンソウの特徴や駆除に関する説明を受け、根から掘り取って駆除することが効果的であるが刈取りでも種子生産を抑制するため効果があることなどについて学習しました。

第1回で掘取作業をした場所に、5m×5mの大きさで計16区画（予備の4区画を含む）を設定し、概ね5人一組で編成した12班が各区画に入って掘取作業を行いました。

刈取作業については、前回実施場所でオオハンゴンソウの芽が多く出ている場所に加え、前回実施できなかった場所も併せて、牧野組合を中心に実施しました。刈取りを実施した範囲が広範囲となったため、刈り取ったオオハンゴンソウを集める作業に時間を要しましたが、掘取及び刈取作業で1,010kgのオオハンゴンソウを駆除することができました。

また、踊場湿原については、諏訪市教育委員会を中心に作業を実施しました。



④ インターチェンジ草地ヘラバヒメジョオン駆除

○作業状況

霧ヶ峰インターチェンジ付近のビーナスライン沿いの草原において、優占種であるススキ刈取り・搬出作業によってススキの勢力が弱まったことにより侵入定着が見られるヘラバヒメジョオンの駆除を、8月28日(水)のススキ群落刈取り作業時に合わせて実施しました。当日はあいにくの霧雨が降る天候でしたが、ススキ刈取り班以外の26名をヘラバヒメジョオン駆除班とし、運搬作業に移るまでの1時間程度で、なるべく地際から剪定バサミで刈取りました。

時おり雨も強まる中、強清水園地に近いエリアを、すべては刈り取ることができませんでしたが、これらの駆除作業で、ヘラバヒメジョオンを150kg駆除することができました。



(2) 草原再生事業

① インターチェンジ草地ススキ群落刈取・搬出

○日時：(刈取) 令和元年8月28日(水) 9時から12時
(搬出) 令和元年8月29日(木) 9時から12時

○場所：霧ヶ峰インターチェンジ草地

○作業状況

霧ヶ峰インターチェンジ付近のビーナスライン沿いの草原において、優占種であるススキを刈取り、草原外へ搬出することによりススキの勢力を弱め、多様な植物の生育する草原に再生することを目的に、下桑原牧野農業協同組合を中心に実施しました。当日はあいにくの霧雨が降る天候でしたが、募集定員50名に対し38名の参加がありました。また、昨年引き続き、ススキを茅葺屋根の材料として使用する職人の方にも参加いただきました。

開会式を強清水園地の広場で行い、事務局からの説明で作業区域、手順等を確認し、作業に入りました。また、茅葺屋根職人の方からも、ススキの活用状況等について説明していただきました。

刈取りは、幅50m×延長200mの1haの面積を刈払機を用いて牧野組合を中心とした12名で行いましたが、霧雨に加え時おり雨も強まる中、昨年度より人数が少なく、予定通りの範囲を実施することができず、一部は刈取りができませんでした。また、刈り取ったススキは万能袋と防災シートを併用して道路沿いの2箇所に堆積しましたが、前半にヘラバヒメジョオン駆除作業を行ったこと、地面やススキが雨で濡れたことなどから、刈り取ったススキのすべてを集めて堆積することはできませんでした。

搬出は、翌29日(木)に協議会事務局(10名)と収集運搬委託業者(2名)で実施しました。堆積したススキをパッカー車に積込み、堆肥として活用するため、委託した堆肥化施設へ搬入しました。



② 車山肩東ニッコウザサ群落刈取・搬出

○日時：(刈取) 令和元年8月31日(土) 9時から12時
(搬出) 令和元年9月3日(火) 9時から12時

○場所：車山肩東

○作業状況

車山肩東側の防鹿電気柵設置個所において、優占種であるニッコウザサを刈取り、草原外へ搬出することによりニッコウザサの勢力を弱め、多様な植物の生育する草原に再生することを目的に、霧ヶ峰高原牧野農業協同組合を中心に実施しました。今年度は刈取と搬出を別々に実施し、刈取り作業は霧ヶ峰高原牧野農業協同組合を中心に16名、搬出作業ではボランティアを募集し、募集定員40名に対して29名の参加となりました。

まず、8/31(土)の刈取り作業についてですが、開会式を車山肩の駐車場でを行い、作業区域、手順等を確認し、作業に入りました。

刈取りは電気柵内を100m×50mの4つのエリアに分け、そのうち2つのエリアの1haを実施しています。今年度は、28～30年度まで毎年度作業を行ってきたエリアは実施せず、昨年度及び26、27年度に作業を行ったエリアと、今年度初めて作業を行うエリアで刈取りを実施しました。傾斜のきついエリアで、時間の都合もあり最上部の一部のみ刈取りができませんでしたが、概ね予定どおり刈取りを実施できました。

次に9/3(火)の搬出作業についてですが、万能袋と防災シートを併用することにより効率的に作業を実施し、刈り取ったニッコウザサの多くを草原外のビーナスライン下の人工林に堆積しました。しかし、初めて実施した傾斜のきついエリアで、人数や時間の都合もあり、一部は搬出ができませんでした。

また、刈取り作業時には種子を付けたニッコウキスゲが多数残っていたため、搬出作業前に、作業箇所には落ちていたニッコウキスゲの種子を可能な範囲で拾い集め、搬出作業後に、搬出が終了したニッコウキスゲの少ない場所へ播種しました。



3 まとめ

今年度は、インターチェンジ草地ススキ群落刈取り作業で、ヘラバヒメジョオン駆除作業の追加や霧雨の影響があり、予定した作業をすべて終了させることはできませんでしたが、その他の作業については、予備日への延期や作業の中止はなく、協議会やボランティアの皆様にご協力いただき、概ね予定通り実施することができました。

4 その他

樹木用シカ忌避剤（有効成分：全卵粉末）が、草本に対するニホンジカ食害対策としても有効かどうかの実証試験を、自然保護課・環境保全研究所が中心となり、車山肩付近の試験地において5月中旬から7月中旬にかけて行いました。

今年度の結果としては、忌避剤をニッコウキスゲに散布・付着させることで、ニッコウキスゲに対するシカの嗜好性を下げる効果はあったものの、霧ヶ峰ではシカが餌として他の草本を選択するまでには至らず、忌避剤散布したニッコウキスゲも多くが食べられていました。

実証試験は今年度で3年目となりましたが、霧ヶ峰のようにシカ密度の高い地域におけるニッコウキスゲについては、群落全体を保護できる電気柵のような効果が期待できないため、今年度で完了とします。